

しおりの砂

旅のしおりイラレでつくる二月尽  
猫の恋ガードレールを駆けくぐり  
潮騒へビル低くなる残花かな  
ぼろ靴を舐ぶる仔犬や桜貝  
三人に春の時雨のいくたびも  
駅名に浜の字多き五月かな  
「キャンプ地とする！」パラソルを強く刺す  
焼きそばを提げて浮き輪をして戻る  
涼風やベンチに乗せる砂の脚  
夕風に曳かるる水脈の交はらず  
夏の夜のちがうルールの大富豪  
起こされて代わる運転秋の星  
一本の葉に松虫の翅の触る  
縮飛んで宿町の灯は二里彼方  
身に入むや浜から遠き喫煙所  
宿の子に木の実放ればわらひけり  
茶の花や厨の声が廊にまで  
脚の向き揃へ越前蟹を箱  
水面搔き馳走を選るや冬鷗  
干鮭の逆さに宙を噛みみたり  
蠟梅に空透くるなり帰らむか  
流水を背に聞きある二等室  
乗り継いで狭き本州いかのぼり  
手のひらの切符に刺され花疲れ  
ゆく春の君等駅まで起こさでおく

西野結子  
南幸佑  
岸快晴  
森田雪虚  
南幸佑  
森田雪虚、南幸佑  
西野結子  
西野結子  
岸快晴  
森田雪虚  
西野結子  
西野結子  
岸快晴  
東郷寿日太  
岸快晴  
南幸佑  
南幸佑  
南幸佑  
南幸佑  
森田雪虚  
東郷寿日太  
南幸佑  
東郷寿日太  
岸快晴  
南幸佑